

【科目名】小児聴覚障害学		【担当教員】星名 信昭						
【授業区分】 専門分野（聴覚障害学）	【授業コード】	(メールアドレス) hoshinanobuaki@world.ocn.ne.jp						
【開講時期】2 年次 前期	【選択必修】必修	(オフィスアワー)						
【単位数】1 単位	【コマ数】8 コマ	授業開講日 非常勤控室にて						
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 耳科学や聴覚検査などに関する基礎医学を履修していることが望ましい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義内容に関する文献や資料を配布する。時間内に修得すべき内容を深めるためのミニテストやレポートを課す予定。								
【講義概要】 (目的) 聴覚障害によって起こる最も深刻な問題は、コミュニケーションの障害である。その改善のためにこれまで追求されてきた種々のコミュニケーションの方法とその指導、訓練法を修得することを目的とする。 (方法) 症例等を参考にして、各年代毎の特性、指導訓練の実際を通して学習する。								
【一般教育目標(GIO)】 ・小児聴覚障害について、指導方法を障害や発達に照らし合わせて考えることができる。国家試験レベルの知識を身につける。								
【行動目標(SBO)】 ・小児聴覚障害を説明できる。 ・小児聴覚障害への指導方法を説明できる。								
【教科書・リザーブドブック】 佐場野優一 山田弘幸 編・『聴覚障害 I -基礎編』建帛社, 2008 年. ¥2,520 山形弘幸 佐場野優一 編・『聴覚障害 II -臨床編』建帛社, 2008 年. ¥2,520								
【参考書】 印刷物を配布する。								
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の GAP 制度に従う。 定期試験で評価を行う。								
【達成度評価】	試験	小テ スト	レポート	成果発 表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合	50	30					20	100 点
評 取り込む力・知識	40	20						60

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力	10						10
	コラボレーションとリーダーシップ							0
	発表力		10					10
	学修に取り組む姿勢						20	20
【授業日程と内容】								
回数	講義内容	授業の運営方法		学修課題(予習・復習)		時間(分)		
1	聴覚障害とライフステージ	講義		聴覚障害総論(教科書聴覚障害 I P2-12)				
2	聴能の発達と思考・言語の発達	講義		聴覚障害児の発達 (教科書聴覚障害 II P2-6、 プリント)				
3	聴覚障害の疾患原因と発症時期	講義		聴覚系の構造・機能・障害 (教科書聴覚障害 I P16-36)				
4	小児聴覚障害の諸検査	講義		聴覚検査(教科書聴覚障害 I P64-68) 新生児乳幼児検査(教科書 聴覚障害 I P117-135)				
5	小児聴覚障害児の発達課題	講義		聴覚障害児の発達 (教科書聴覚障害 II P2-6、 プリント)				
6	小児聴覚障害児の訓練・指導 I	講義		評価(教科書聴覚障害 II P7-11)、 養育者への指導(教科書聴 覚障害 II P12-19)				
7	小児聴覚障害児の訓練・指導 II	講義		小児聴覚障害児の指導 (教科書聴覚障害 II P20-71、111-123)				
8	小児聴覚障害児の訓練・指導 III (親への指導)	講義		早期発見・早期教育、教育 就労(教科書聴覚障害 II 163-184)				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。